

会議名	平成 30 年度第 3 回常総市男女共同参画推進審議会		
年月日	平成 30 年 11 月 22 日 (木) 10:00~11:45	場 所	市民ホール
出席者			
平成 30 年度常総市男女共同参画推進審議会 (11 名)			
土田 尚宏 篠崎 敏子 渡邊 裕昭 飯田 邦男 石川 榮子 堀越 輝子			
中村 博美 中莖 道夫 岩見 昌光 秋場 ふぢ 渡辺 定夫			
欠席者 (4 名)			
海老原 和子 石川 美江子 黒澤 重美 倉持 千鶴子			
出席者			
市長	神達 岳志 (答申のみ)		
市民協働課 (事務局) 課長	沼尻 俊彦		
〃 課長補佐	佐内 真由美		
〃 係長	篠塚 純子		
〃 主事	岡野 玲香		
株式会社ワイズマンコンサルティング	吉元 淳		
1 開 会 (10:00)			
市民協働課沼尻課長			
2 あいさつ			
常総市男女共同参画推進審議会 会長 石川 榮子			
3 説 明			
(1) 前回の報告説明			
前回の質問に対する回答。(岡野主事)			
① P43 外国人が年々増えており、幼稚園、小・中学校に A L T を派遣しているとあるが、A L T の過去 5 年間の配置人数はどのようになっているのか。担当課に確認する。			
→指導課に確認。			
平成 26 年度から平成 28 年度は幼稚園・小学校で 4 名、中学校で 5 名、計 9 名、平成 29 年度は幼稚園・小学校で 5 名、中学校で 5 名、計 10 名、平成 30 年度は幼稚園・小学校で 6 名、中学校で 5 名、計 11 名である。			
② P50 女性消防団員の入団促進について、婦人防火クラブでは事業の内容にある一人暮らし高齢者宅や幼稚園・保育所に訪問して火災予防啓発など訪問活動などを行っている。女性消防団員も、防火クラブと同じような事業の内容を行うのか。担当課に確認する。			
→防災危機管理課に確認。			
それぞれ女性消防団員と婦人防火クラブでは別の事業を行っている。前回の計画書 (案) の内容ではそのことが分かりにくかったため、本配布の計画書 (案) では具体的な事業を記載し、修正した。			

③ P58 アンケート調査のDV被害があったときの表について、アンケート調査のDVの設問では「何を言っても無視された」、「生活費をくれない」などを分けて聞いているが、本当にDVであるかの確証はなく、また、この結果は回答者の見解によって出されており、このような形で本市のDV状況を掲載することは好ましくないのではとの意見があった。当課で検討する。

→意見を踏まえて表は掲載しないこととした。

それに伴い、旧計画書(案)P68の「第3節 目標値の設定 3 基本目標Ⅲ お互いに支え合うための土台づくり」の「市民意識調査の結果において、DV被害にあった時に「相談しなかった」と答える人」の項目を削除した。

その他の修正点については、配布した資料にて各自確認することとした。

(意見)

委員：③P58のアンケート調査について、男女共同参画を考えるにあたり、DVやモラハラはウェイトの高い分野である。また、DV対応をするにあたって、実情を正しく知っておく必要があり、アンケートは重要な基礎資料となる。「確証がない」との意見があったが、本人が「あった」と言っているものについて、第三者がDVでないとは言えない。よって、このアンケート結果は削除すべきではない。

委員：本人が「あった」と言うのであれば載せるべきである。回答する人も我々もDVについてよく勉強・啓発していく中でのアンケート回答であればよかった。

委員：「相談しなかった」理由も悪いものばかりではなく、DVがなくなった、友人の手助けがあったなども考えられる。「相談しなかった」理由についても吟味すべきである。

市民協働課長：当初P60の基本目標Ⅲ 3-1(2)3項目目「DV被害者支援体制の構築」はDVが解決するかしないかではなく、広く相談窓口を広げたいという意味合いであり、その参考資料として掲載していた。

委員：表についてパッと見ただけでは男性の方がDVの被害が多いと読み取ってしまう人もいるのではないか。

委員：母数をきちんと示しているので表は正しく読めると思う。「相談しなかった」という回答を示すためにも載せるべきだと思う。

委員：どんな人に相談していたかも重要である。表の掲載によって一般の人がどんな所に相談できるのか、知ってもらうことが出来る。

等の意見が出された。

→「実際にDV被害にあったときの相談先(DV被害にあった経験がある方の回答)」を掲載することとし、加えて「相談しなかった理由(DV被害にあった経験があり、相談しなかった方の回答)」も掲載する。

(質疑応答)

委員：P21の「8国際化の状況」を見ると外国人はこの5年間で千人程増えている。今後国際交流センター等が必要になってくるのではないかな？

市民協働課長：国際交流サロンにおいて外国人の生活相談等を受けている。また、ピアサポーターと言う日本や市のルールなどを学んでもらい、架け橋になれるような人材育成にも取り組んでいる。

委員：フォントは読みやすくて素晴らしいので実際の計画書でも使用してほしい。審議員の名簿は最後の方でもいいのではないかな。また、この計画は市全体で捉えているのか。

市民協働課長：毎年各課で施策の進捗状況を評価しており、職員向けの研修会も行っている。そのため、職員も男女共同参画について理解していると考えている。

4 議 案

議案第1号 第2次常総市男女共同参画計画【後期実施計画】(案)の答申について

資料に基づき説明。(篠塚係長)

【審議の結果】

1. 実際に推進するのは企業のため、「推進に努められたい」から「視野に入れた計画の推進に努められたい」へ変更。

2. 変更なし。

3. 変更なし。

4. 「社会的弱者等」の文言の追加。

その他の部分について、言い回しの修正を行った。

5 答申(石川会長から市長へ)

石川会長が答申書を読み上げ、神達市長に答申書を渡す。

第2次常総市男女共同参画計画(後期実施計画)(案)について

市長あいさつ及び市長を囲んで集合写真撮影。

6 閉 会(11:45)

市民協働課沼尻課長